は　じ　め　に

PREFACE

「人文学」の創刊は昭和23年のことであるから，今年（昭和47年）で，約四半世紀を経たことになる。さて本誌の119号の刊行を一つのピリオドとして同志社大学人文学会は若干の改組を行い，また以後刊行する機関誌に新しい構想を盛ることになった。これを機会に，この120号を既刊の分の総目録特集にあて，整理と検索の便宜をはかることにする。

創刊号によってみれば，その時の会員数はわずかに18名であった。四半世紀を経た今日，その内6名が依然現会員として健在であることはうれしいことであるが，それはそれとして，現在の会員数は優に百名をこえてしまっている。規模がこのように大きくなっただけではない。人文学はその出発から，人文学という名が包む多様な専門諸領域の研究者をその会員に持っていた。このことを反映して，何等専門分野による特集の名をつけず，「人文学」のまゝに刊行を行ったのは，わずかに2号までで，以後第9集をのぞいて，すべての号は特集の形式を採用してきていることは，以下の目録の示すとおりである。

広い視野，人生的関心と専門への集中深化との両立は個々の研究者にとっても肝要のことであるが，同じことはわれわれの人文学会のあり方についても云える。そしてその機関誌の名称，発行の形式に関しても，はじめから議論はあったし，その規模の拡大に伴って，更に熱心に討議はくりかえされてきた。それから生れたのが，今回の改組，新構想である。要約すれば，これまでの特集の名を冠した専門領域が，従来よりも独立性を際だたせることになった。今までの「英語・英文学研究特集」は「同志社大学英語英文学研究」と，「社会学特集」は「評論　社会科学」と改称され，

一応「人文学」とは分離されることになった。但し「人文学」はひき続き刊行され，在来の「文化学科特集」に編集されたものをそれに盛ることになった。更に同志社大学外国文学会を人文学会とは別組織として新たに認め，その機関誌「同志社　外国文学研究」に，これまでの「外国語　外国文学特集」に当るものの編集を委ねることになった。

このように機関誌は四つに分割されることになったが，人文学会は依然この内の三つを統括，運営する組織として活動を続けて行くのであり，又一応別組織となった同志社大学外国文学会とも親密な協力関係を持ち続けて行くことが期待される。

諸種の事情で，本号の発行は非常におくれてしまったが，昭和47年度の編集委員諸氏，特に青木次彦助教授の御尽力を得て，ようやく刊行の運びに至った。記してあつく感謝の意を表したい。

同志社大学人文学会

会長　木村　俊夫